

さんよう広場

第31号

平成28年1月



病院長 森田須美春

2025年問題というのをご存知でしょうか。昭和20年の終戦後の第一次ベビーブームと呼ばれる昭和22年から24年に誕生した世代は、突出して人口が多く団塊の世代と呼ばれています。この人たちが一斉に後期高齢者と呼ばれる75歳を迎えるのが2025年のことで、これを問題だ、として2025年問題と呼ばれているのです。国民の医療費は年間40兆円を超え、一人当たりでは65歳未満が約17万円に対して65歳以上は約72万円と高齢者の医療費が4倍以上かかり、これが2025年には54兆円になると厚労省は発表しています。年金や医療費をテーマにするとまるで高齢者が悪者のように扱われたりしているわけです。

昨年WHOが高齢者に関する報告書を公表しました。年金や医療の観点から高齢者を重荷とする差別的な考え方があると批判し、税金や個人消費、社会への貢献を考えると差引プラスであると結論付けています。困難な課題に直面した時には精神的支えとなり、指導的な役割も担っているとして高齢者を高く位置づける報告をしました。そして世界で最も長寿を誇る日本に対して、新しい取り組みをして世界に発信することを期待するとしています。

最近の高齢者の体力は以前より若返っているというデータが発表されました。たった10年、15年前と比べて同年齢の方の体力は10歳近く若返っており、65歳以上や75歳以上の体力は男女ともほとんど過去最高になっています。

さらに知能検査でも同じことが証明されました。60~70才代の成績が向上し10年前と比べると10歳程度若い人たちと同じになっているそうです。

病気に関しても脳卒中、心筋梗塞、骨粗鬆症を初めとしてほぼすべての病気で、治療を受けた人の数が過去の同じ年齢と比べると大きく減っており、介護認定もすべての年代で介護度が軽減していることがわかっています。

高齢期には生きがい、生きる満足度が下がると思われるがちですが、最近の研究結果では、生きる満足度が最も高いのは18歳位で、それ以降は50代位まで徐々に下がっていき、しかしその後は85歳位まで上昇し続けているという結果が出ました。高齢者の方は思ったより上手に生きておられることもわかつてきました。

高齢者の皆さんはもっと自信を持つべきです、ずっと元気でいる努力もすべきです。そしていつか来るであろう最期の迎え方もしっかりとした判断力で自ら決めることができたら良いのかなと思います。



看護部長より

明けましておめでとうございます。看護部長の合田です。

2016年の干支の申年について調べてみると「形が明らかになってくる」

「実が固まっていく」となっていました。これは、「これまでの頑張りが形になっていく」、「これまで気づけなかったことに気づく」を意味するともありました。まさに今年の当院そのものにあたります。

1996年に開院した三木山陽病院は2016年に20年目になりました。この間、病院は職員総力をあげて、「地域に求められる医療」に応えられるよう頑張ってきました。そして今年、二十歳、成人を迎えたのです。

これからは、職員一人一人が医療人として、三木山陽病院の一員として大人としての成熟度を増していかなければなりません。職員の皆さん、一緒に頑張りましょう！

病院では今年は大きな予定が既に2つ決まっています。

1つ目は、病院機能評価の更新です。

今回の審査では、「多職種での連携」に重点が置かれています。団塊の世代が後期高齢者になる2025年に向けて当然と思える視点です。

受審に向けて着々と準備をしてきましたが、患者さまやご家族、そして医療者の満足に繋がるよう最後の追い込みに頑張っていきたいと思っています。

2つ目は、電子カルテの導入です。

「多職種での連携」が必須となっている現在、看護師にとって迅速に動くには、効率的に情報を得ることが必要です。そのことから電子カルテは大きな武器となるものと期待しています。

ですが、電子カルテに翻弄されることのないよう、1人1人が使いやすいもの、役に立つと実感が得られるよう進めていきたいと思っています。

2016年申年、忙しくなりますが、「患者さまの気持ちに寄り添う心」を大切に歩んでいきたいと思っています。

看護部長 合田洋子



サンスマイル三木より

あけましておめでとうございます。

私がサンスマイル三木に大きく関わるようになってはや2年が経ちました。

当初は自分が役に立つか自信がなく不安ばかりのスタートでしたが、今はお引き受けして本当に良かったと思っています。



現代の医療では検査結果に基づいて治療を施すことが当たり前になっていますが、老人保健施設であるサンスマイル三木では検査をすることは当たり前ではありません。（病院併設の施設のため検査はいつも出来ますが、より家庭に近い環境を提供することを重視しているため利用者さまに病院を連想させる検査は頻繁にすべきではないと考えています。）そこでは気軽に検査が出来ない分、まず十分に食事が摂れているか、便秘で苦しんでいないか、よく眠れているか、そして機嫌良く生活が送られているか、ということを指標とし利用者さん達の健康状態を確認しています。

またそれまでの私は、問診や診察よりも検査結果を重視して診療に臨んでいたように思いますが、今ではまず顔を見て、話をして、胸の音を聴いて、お腹を触って…という原点に立ち戻って診療に臨むよう心掛けるようになりました。不安ながらもお引き受けしたサンスマイル三木で、私が忘れそうになっていた診療の原点を思い出すことになりました。今では病院でもサンスマイル三木でも、この原点を忘れることなく日々の診療に臨まねば…と思うようになりました。

ところで、この原点（「食事が摂れているか、排便が毎日ちゃんとあるか、夜眠れているか、この3つのことこそ患者さんが元気であるかどうかの指標である。そして、まず診察することから始めなさい。」ということ）を研修医であった私に最初に教えてくれたのは、当時の私の指導医であり現在の病院長である森田先生でした…。

今年も山陽病院と同様にサンスマイル三木をよろしくお願ひ致します。

サンスマイル三木 施設長 岡本安生

『第2回 さんサン健康ひろば』が開催されました！

10月25日（日）に第2回『さんサン健康ひろば』を開催しました。

第1回目の参加者を上回り、360名を超える多くの方に参加して頂きました。

血液検査、骨密度測定、ABI検査、医療相談、看護相談などの各ブースに分かれて、地域の皆様との触れ合いの場を持つことができました。

院長の講演やクイズ大会にもたくさんの方が参加されました。また、多くの方にアンケートにご協力頂き、貴重なご意見をたくさん得ることができました。ありがとうございました。

自由が丘中学校による
吹奏楽部のオープニング演奏



院長の講演



測定ブース



骨密度測定ブース



血液検査ブース



健康体操の様子

相談ブース



医療相談の様子



栄養相談の様子



クイズ大会は、名司会者の
おかげで盛り上がりいました

自由が丘自治会の皆様の作品の展示コーナー

「PHOTO自由が丘」のみなさま



はまゆうコーラスさん
(サンスマイル三木にて)





クリスマスコンサート

12月5日（土）1階ロビーにて今年もクリスマスコンサートを開催致しました。三木で活躍されている宮本とし美&辻ノブコさん、TETSUYA&マイケルさんにクリスマスソングなど素敵なハーモニーにのせて、たくさんの曲を披露していただきました。美しい歌声とともに観客の皆様も一緒に口ずさみ、手拍子もあふれ明るくとても楽しいコンサートとなりました。



クリスマス会

12月22日3階病棟でクリスマス会を開きました。スマイル保育園からとてもかわいいサンタ姿の子供たちが歌とダンスを披露してくれました。3階スタッフによるミニライブやハンドベル演奏があり、患者さまとの楽しいひとときを過ごしました。



ひとつこと

今年のインフルエンザの流行は全国的にも遅くなりました。今季のインフルエンザ流行期入りが年明けになるのは、2006年以来となるようです。

例年、11月下旬～12月に流行期に入ることが多いのですが、国立感染症研究所の全国の定点医療機関からの報告でもまだ流行の兆しも見られておらず、流行が遅れている理由は不明です。そのため、今年度のインフルエンザ予防接種のワクチンと流行するウイルスタイプが合っているかどうかはわかりませんが、まだ未接種の方はこれからも予防できるチャンスがあるということです。ワクチンを打ってから、抗体ができて免疫能を獲得するまでに約2週間はかかります。未接種の方は医療機関では是非ご相談されて下さい。

アクセス MAP



医療法人社団 朋優会 三木山陽病院

〒673-0501
三木市志染町吉田 1213-1
TEL 0794-85-3061
FAX 0794-85-3582
<http://www.mikisanyo-hp.com>
E-mail:info@mikisanyo-hp.com